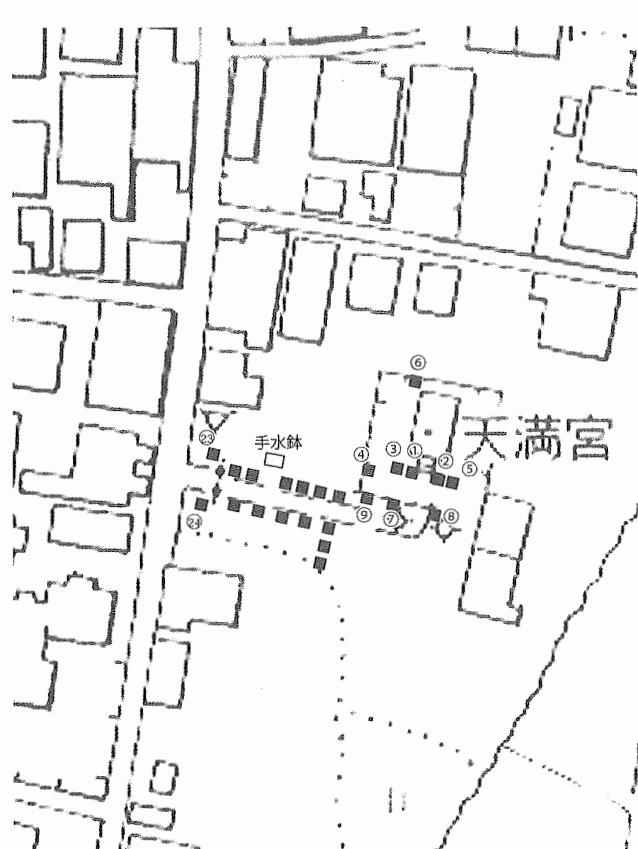


2. 川口天満宮

川口天満宮は、八幡市川口堀内に所在する。川口村の旧村域のほぼ中央に位置し、北西 100 m の地点には浄土宗正念寺が所在する。『村誌』によると、川口村は明治期の大合併以前までは山城国綴喜郡川口村に属していた。村は八幡庄と同じく、貞觀 2 年（859）の八幡宮の遷座以来は神領となっている。村は南東方向から西に流れる木津川に面している。主要河川に面する立地であるが、滞水することがほとんどなく、また水運が至便な土地でもある。天満宮は村社であり、創立時期の詳細は不明であるが、菅大神を祭神として祀る。

境内に現存する石造物は、燈籠が 24 基と比較的多く、他は手水鉢が 1 基、鳥居が参道入口と境内入口にそれぞれ 1 基ずつある。燈籠の数は多いものの、参道に並ぶものは近現代のものがほとんどである。年代が判明する石造物は少なく、参道入口の撥形の 1 対（23・24）が、文化元年（1804）のもので年代的に最も古く、基本的には 19 世紀半ば以降の石造物が大半を占めており、本社の創建に関わる年代等については、石造物から判断することはやや困難である。拝殿に向かって右端の六角火袋の円柱形燈籠（5）については、弘化 4 年（1847）のもので、基台や中台、火袋が蓮華や十二支で飾られたやや手の込んだ作りである。類似したタイプのものは近代以降に盛行する場合が多く、そのような意味においてはやや古手の時期の所産と言える。

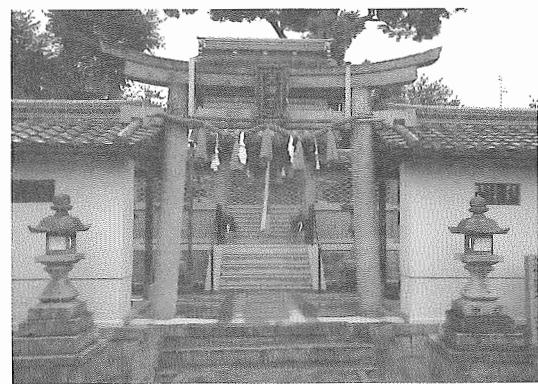
（笛栗 拓）



石造物の配置図



境内の景観 1



境内の景観 2

図3 川口天満宮（1）

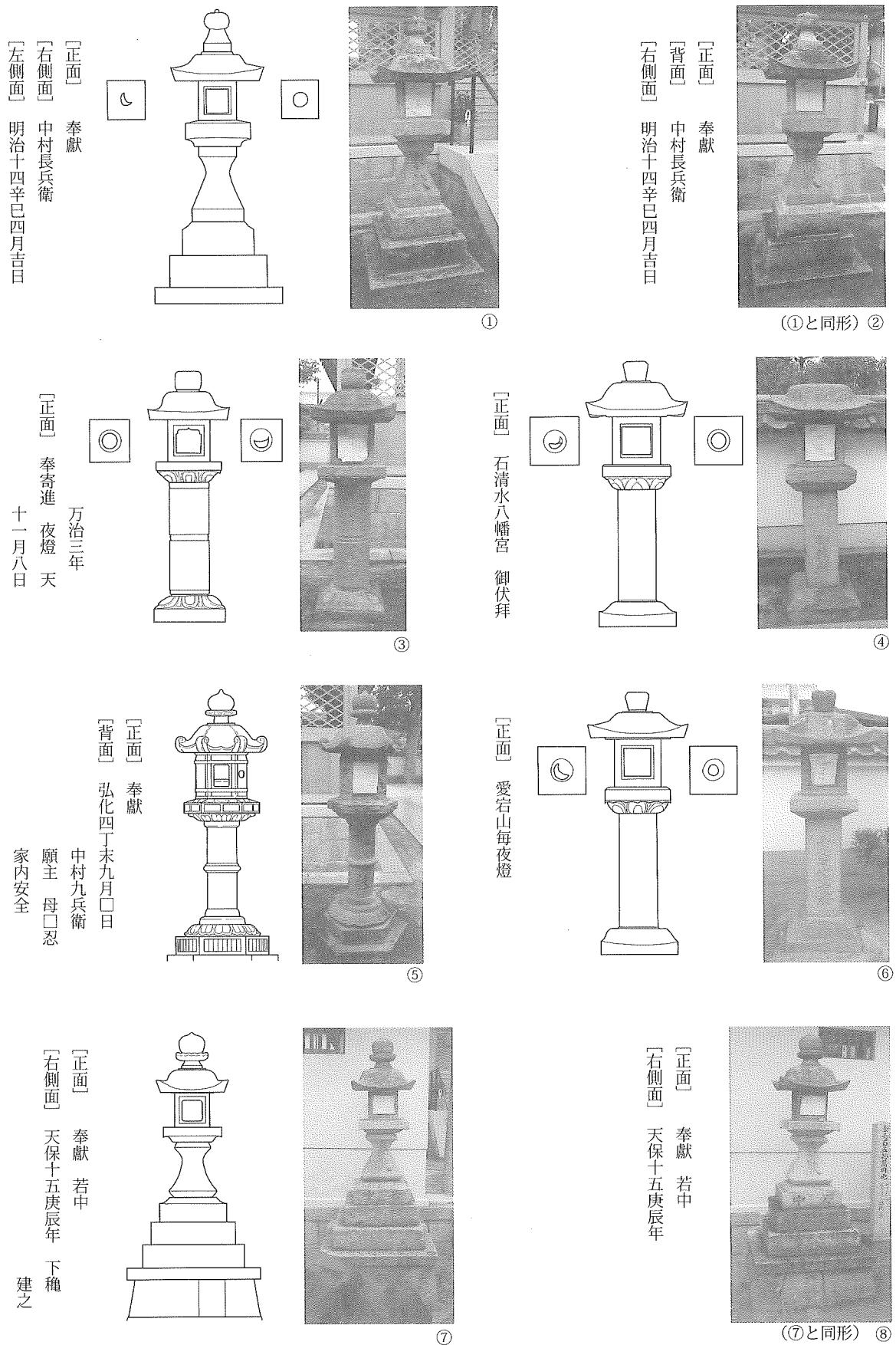
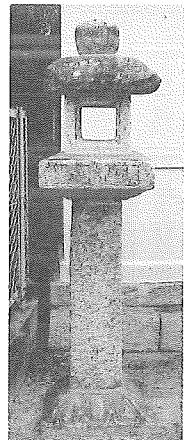


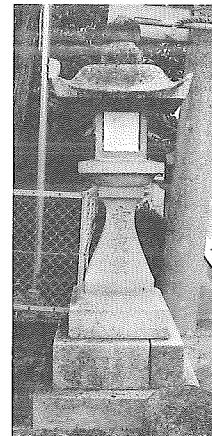
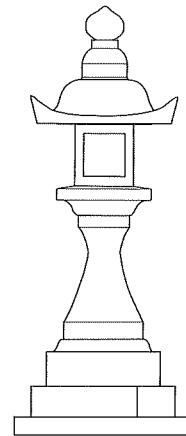
図4 川口天満宮 (2)

〔正面〕 奉寄進天満（大明□）



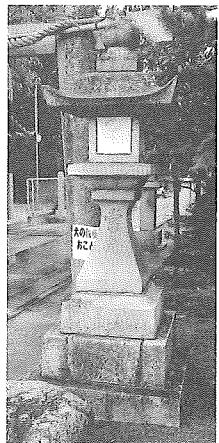
⑨

〔正面〕 常夜燈
〔背面〕 西川小右衛門
〔右側面〕 文化元子歲霜月



⑩

〔正面〕 常夜燈
〔背面〕 西川小右衛門
〔右側面〕 文化元子歲霜月

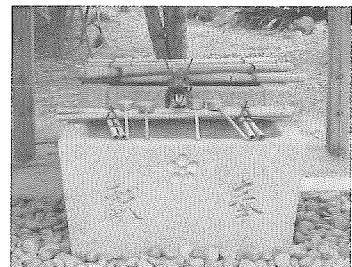
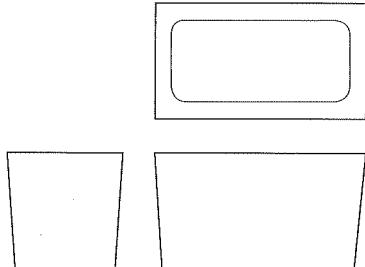


(23と同形) ⑪



調査の様子

〔正面〕 奉獻（ヨコ）
〔背面〕 天保十二辛丑年
五月吉日
願主 若中



手水鉢

図5 川口天満宮（3）